



体で感じて学ぶ！

「プロジェクト・ワイルド」 参加者募集 について

謹啓 向暑の候 皆様方にはますますご健勝のこととお慶び申し上げます。

さて、このたび、参加体験型環境教育プログラム「プロジェクト・ワイルド」の一般指導者(エドゥケーター)養成講習会の受講者募集を開始しましたので、お知らせいたします。

「プロジェクト・ワイルド」の一般指導者は、今年3月で1万人を突破し、数ある環境教育プログラムの中でも、国内最大級の指導者数を誇ります。また、2004年に施行された「環境教育推進法」では人材認定等事業に登録され、環境教育の指導者を探している方や、指導者になりたい方にとって、重要かつ効果的なプログラムの1つとなっています。

なお、プロジェクト・ワイルドの概要については、別添資料をご高覧ください。

つきましては、皆さまには御多忙中のことと存じますが、取材並びに記事掲載の程よろしくお願い申し上げます。
謹白

「dai1inshou」

本編：第5章 文化と野生生物

動物の写真をみたときに感じたことを話しあいます。
人気のあるもの嫌われるものを選びます。
特に「怖い」と思うものの環境への貢献度を伝え、「第1印象」について話し合います。



動物に対する神話や固定観念にもとづく反応と、正確な情報にもとづく反応を区別できるようになります。
人間が恐れを抱く動物も含め、生態系に対する動物の貢献度を認識できるようになります。

「つながり発見！生息地」

本編：第1章 気づきと理解

みんなで、生息地の構成要素になり、つながって輪をつくり、生息地を表現します。



生息地の構成要素にはなにがあるのか、人間や他の動物が、どのように生息地に依存しているかがわかるようになります。
人間や野生生物にとって、生息地が消失したり変化することが、いかに大事であるかをわかるようになります。

プログラムの例

お問い合わせ先

〒312-0012 茨城県ひたちなか市馬渡字大沼 605-4
ひたち公園管理センター企画課 穂積・田中・小池
電話(029)265-9005 FAX(029)265-9339
お客様問い合わせ番号(029)265-9001
ホームページ <http://www.hitachikaihin.go.jp>

「プロジェクト・ワイルド」一般指導者(エデュケーター)養成講座について

1. 目的

近年、地球規模での環境問題への関心が高まる中、学校、地域社会、行政等の立場で環境教育(又は学習)の新たな取り組みが課題とされています。都市公園では平成8年度より、市民の環境活動や指導者の育成拠点として「環境ふれあい公園」の整備が進められています。このような公園緑地でのニーズを受けて、プロジェクト・ワイルドの内容およびその活動を、広く普及、啓発することを目的として実施します。

2. 実施日時

平成18年8月26日(土)10:00～17:30(9:30受付開始)

3. 主催

国土交通省関東地方整備局 国営常陸海浜公園事務所
財団法人公園緑地管理財団 ひたち公園管理センター

4. 対象

環境教育に関心を持つ方
公園緑地・ネイチャーセンター等における指導者等

5. 定員

30名(定員になり次第締め切り)

6. 参加費

8,100円(当日受付にて徴収)
(テキスト、資料代、入園料、保険料等含む)

7. 場所

ひたち公園管理センター

8. 講師

郡司晴元氏。プロジェクト・ワイルド上級指導者(ファシリテーター)。茨城大学教育学部助教授、1968年茨城県生まれ。大学・大学院では自然人類学・霊長類学を専攻。学生時代から、野外教育、環境教育のボランティア活動にも関わる。非常勤講師、(財)日本モンキーセンター・リサーチフェローなどを経て、2004年4月から現職。茨城大学教育学部では環境教育演習などの授業を担当。

9. 申し込み方法

申込用紙に必要事項を記入の上、FAXまたは郵送による申し込み。
締め切りは8月16日(水)。

「プロジェクト・ワイルド」のプログラムは高い評価を受けています

プロジェクト・ワイルドは、「自然を大切に」と理解するだけでなく、「自然や環境のために行動できる人」を育成することに取り組んだ、生き物を題材とした環境教育プログラムです。

プロジェクト・ワイルドでは、1つの活動をアクティビティと呼んでいます。それぞれのアクティビティは、多くの実地試験を経て、科学的根拠に基づいて作成されており、教育上優れた価値を有しています。

これまでに、全米で100万人以上の指導者が養成され、5,300万人以上の子どもたちがワークショップを受けており、米国で最も広く使われています。

日本では、当財団が米国環境教育協議会とライセンス契約を行い、活動ガイドの翻訳・活用・指導者養成講習会を行い、環境教育の普及、指導者の育成を図っています。

子どもたちが夢中になる「プロジェクト・ワイルド」

プロジェクト・ワイルドの特徴として体験学習法に基づいていることが挙げられます。それは、What to think (何を考えるか)ではなく、How to think (どのように考えるか)が大事であることを指導します。



アクティビティは実際の授業や現場に応じて容易にアレンジができ、子どもたちが夢中になる楽しさがあります。また、アクティビティでは生態系の仕組みと人間の関係、生活を模擬体験することができます。

全国各地で活躍している「プロジェクト・ワイルド」指導者

プロジェクト・ワイルドを活用した環境教育活動がたくさんの指導者によって、いままさに全国各地で広がっています。

学校では

学校の先生は、プロジェクト・ワイルドを授業(総合学習の時間、理科、社会、体育など)に取り入れて実施しています。子どもたちにとってもゲーム感覚で楽しみながら学べることから大変好評です。

地域では

NPO法人や地域団体の指導者は、プロジェクト・ワイルドを活動に取り入れて、学校の出前授業や市民を対象にした体験教室等で活用しています。

動物園や水族館では

動物園や水族館の指導者は、動物の毛皮や剥製などとプロジェクト・ワイルドを合わせてガイドツアーなどにリアルさと学習の幅を持たせています。



「プロジェクト・ワイルド」の指導者になるには

「プロジェクト・ワイルド」の指導者(エドゥケーター)になるためには、全国各地で年間約150回開催されている「エドゥケーター養成講習会」を受講し、一定のプログラムを修了していただきます。(受講資格は、18歳以上)

講習会は、上級指導者(ファシリテーター 全国約390人)が指導者となります。講習会では、プロジェクトワイルドの歴史、理念を学び、アクティビティについては、楽しく理解していただくために、ワークショップ形式で1日または2日のプログラムで行われます。

「プロジェクト・ワイルド」の指導者の紹介をしています

現在、環境教育における指導者が、学校・地域等様々な場所において求められています。財団法人公園緑地管理財団プロジェクト・ワイルド事務局では、活動実績の豊富な地域の指導者の紹介を行っています。

「プロジェクト・ワイルド」指導者の構成

